

観光地に飛び出して

リアルな声を聞く経験を

大野 沙知子 助教

Assistant Prof. Ono Sachiko

フィールド調査の方法

2年次 集中科目 / 専門部門 (総合科目群)

2年次から、実際にフィールド調査を体験する

— 「フィールド調査の方法」は、どんな内容ですか？

質的・量的な社会調査の理論や技法を理解したうえで、実際に観光地に出向いてフィールド調査を行います。社会課題解決に活かすため、得たデータの分析から企画提案まで、その一連の流れを通じた調査の手技を修得します。2023年度に初開講となった講義で、大野栄治先生、森龍太先生、私が主担当となり、調査の準備・実施段階には杉浦伸先生、森杉雅史先生にも入っていただき、5名体制で担当しています。

講義ではまず、社会調査の全貌を概観し、その理論と設計について解説します。量的・質的調査の使い分けや、調査の目的設定、設計方法などを広く学んだのち、実際に調査票を設計する演習も行います。その後、実際のフィールド調査に出かけます。

— 実際のフィールド調査では、どのようなことを行いますか。

今年は本学と包括協定を締結する名古屋市と連携し「歴史資産を活用した名古屋の魅力づくり」をテーマに行いました。市職員から現在の課題についてお聞きしたのち、グループごとに課題を洗い出し、調査票を設計しました。調査は、名古屋城と揚輝荘、久屋大通公園でのアンケート調査で、市内の観光資源の

認知度、施設の活用方法などについて聞き取りました。一般人に突然声をかけるということは、きっと学生が思っていた以上にハードルが高い行為で、勇気を振り絞ってがんばっている姿が印象的でした。机上で理論を学ぶだけでは知り得ない、調査という現場に向き合う姿勢の大切さを、そこにいる全員で実感することができた、そんなフィールド調査だったと思います。

知識と経験を積み重ね、自信を持って「挑む力」を

— 講義を通して、学生にはどんなことを学んでほしいですか。

アンケート実施後は、基礎的な方法で分析して提案をまとめ、グループごとにプレゼンをしました。提案を聞いた市職員の方からは「実践の可能性のあるとてもいい提案」というフィードバックもあり、学生にとって自信につながったと思います。

この講義に限らず、学生には「挑戦する力」をどんどん磨いてほしいと思います。挑む心を強くするのは、きっと都市情報学部で学ぶ理論や知識、そしてこうした現場での経験だと思っています。在学中にそれらを積み重ねていくことで、どんな場面でも自信を持って挑戦や提案ができる人、地域のなかで活躍できる人になれると思います。



はじめての社会調査

三井さよ/三谷はるよ/西川知亨/工藤保則 編
(世界思想社)



質的調査と量的調査をバランスよく学べる、社会調査の入門書です。この本では、社会調査のことを「他者を知る営み」と考え、他者をより知ることを通して社会の本当の姿を発見していく、その方法をやさしく紐解いてくれています。社会調査を学び始めたい人に最適です。

学生におすす
めの一冊

学生の声

観光分野に興味があり、2年次の段階からフィールド調査を経験できる良い機会だと思い、受講しました。観光地でのアンケート調査では、想像以上に根気があることを身をもって学び、とてもいい経験になりました。少人数チームでのグループワークでは、協調性が身に付くとともに、大きな達成感もありました。

村松 美那さん(2年生)

